

■韓国：太陽光発電電力の買い取り制度を2011年廃止しRPS制度導入へ

韓国政府は2009年5月上旬、太陽光発電電力の買い取り制度の対象範囲を今年から段階的に縮小し、2011年に廃止することを明らかにした。同制度は、太陽光発電を対象に、発電コストと市場価格の差額を政府が負担するものである。昨今の太陽光発電設備の急激な増加により、財政負担が増加し、支給が遅れるなど予算不足が課題となっていた。このため、2009年から対象設備に設備容量で上限を設け、支給対象を段階的に縮小する。知識経済省は、買い取り制度廃止後の2012年以降、RPS制度を導入する方針を固めており、RPS制度導入を盛り込んだ新・再生可能エネルギー法の改正法案を6月の臨時国会に提出するとしている。